

## ◇編集後記◇

暑中お見舞い申し上げます。

雑誌がでる頃には、真夏になっていると思いますが、今年、梅雨らしい梅雨で、紫陽花が良く似合う年でした。北鎌倉では、駅から長谷寺までの道が観光客で一杯だったとのことでした。

その梅雨の時期にイタリアのミラノで第28回国際労働衛生学会議 (ICOH) が開催されました。第一回の会議はミラノで1906年に開催されたのですが、その時の参加者は海外からの参加者18名を入れて289名、口頭発表は59題だったとのことでした。それから100年後の今回は14の会場で8:30から18:00まで、Key Note 53題、口頭発表約1,000題 (Special Sessionを含む)、ポスター発表約640題と計1,700題の演題、参加者は約2,400名とのことでした。学会抄録誌が分厚いのは勿論のこと、第一回の会議から100年目とのことで盛り沢山の特集号を編纂し、それら全てを特製バッグに入れて渡して下さいました。なんと総重量5kg! 肩に食い込む重さに悲鳴を上げてしまいました。その記念誌の中に世界の産業医学、環境医学および毒性学関連雑誌の121誌の写真が掲載されており、本誌の前身である「産業医学第1巻1号, 1959年」誌や「Industrial Health第1巻1号, 1963年」及び「労働科学第30巻12号, 1954年」

誌の写真もありました。

ICOHは全世界の会員により成り立っている組織で、3年ごとに会員の投票による理事選があり、今回の選挙で労働科学研究所の小木和孝先生が副会長に、理事に産業医科大学の高橋謙先生が選出されました。おめでとうございます。両先生の活躍に期待したいと思います。今回のICOHは南アフリカ共和国において2009年に開催されます。

もう一つ嬉しいニュースを御伝え致します。雑誌の有用性はその雑誌に掲載された論文がどの位他の論文に引用されるかによって評価されます。その評価指数としてインパクトファクター (Impact Factor, IF) が使われています。JOHの2005年度のIFが1.5になりました。これは、平均してJOH掲載の2論文につき他誌への引用が3論文と言うことです。今までで最高点です。これは偏に皆様が優れた論文を投稿してくださり、迅速な審査をして下さった査読者の方々のご協力の賜物と感謝致します。さらにより良い雑誌にするために、現在電子投稿の準備を勧めています。今後ともご支援宜しくお願い致します。

(圓藤陽子)

## 「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也 (和歌山医大)

副委員長：圓藤陽子 (東京労災病院), 武林 亨 (慶應大), 堤 明純 (産業医大),

本橋 豊 (秋田大), 森 満 (札幌医大)

荒木田美香子 (大阪大), 有澤孝吉 (徳島大), 市場正良 (佐賀大), 掛本知里 (東京女子医大), 上島通浩 (名古屋大), 車谷典男 (奈良医大), 甲田茂樹 (安衛研), 河野公一 (大阪医大), 西條清史 (金沢大), 榊原久孝 (名古屋大), 澤田晋一 (安衛研), 塩飽邦憲 (島根大), 笠島 茂 (国立保健医療科学院), 埴田和史 (滋賀医大), 谷川 武 (筑波大), 錦戸典子 (東海大), 橋本英樹 (東京大), 濱田篤郎 (海外勤務健康管理センター), 保利一 (産業医大), 森河裕子 (金沢医大), 森田 学 (北海道大), 森本泰夫 (産業医大), 八幡勝也 (ヒューマンメディア財団), 若林一郎 (兵庫医大)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番